

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2672900293		
法人名	社会福祉法人 秀孝会		
事業所名	グループホーム 京都ひまわり園 (2Fひまわり)		
所在地	京都府八幡市八幡清水井20番地		
自己評価作成日	平成27年3月10日	評価結果市町村受理日	平成27年6月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2672900293-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83番地1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	平成27年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が心から自分の家と思える場所「第二の我が家、第二の家族」を目指し、当たり前の生活を明るく共にする事で、家庭的な雰囲気の中で生活していただけるよう意識しています。
 近年、入居者の重度化が進んでいます。その中でも、入居者の自己決定を促し、買物・調理、季節行事など共同して行う事で、日常生活を安全・安心に過ごしていただいております。
 本年度、地域に開院された医院との連携により、これまで行えなかった看取りの提供が行え、安心して生活を送っていただける選択肢が増えました。
 京都府からの受託事業で、認知症あんしんサポート相談窓口を設置しており、地域の方々からの認知症相談を受け付けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人「秀孝会」が平成五年に、八幡市の石清水八幡宮にほど近い地に特別養護老人ホームを開設し、爾来、施設サービス・在宅サービス・八幡市委託事業を展開して、市の福祉事業の中核的な存在となっている。グループホーム「京都ひまわり園」は平成十六年に、特別養護老人ホーム京都ひまわり園とケアハウスボボロ211に隣接し開設された。事業所が目指す「第二の我が家、第二の家族」である様に、その人らしい思いを大切に「寄り添う支援」に努めている。個人が持っている機能が維持出来る様に、日常生活の役割を入居者と職員が協働で行っている。広い前庭に、洗濯干場を設け洗濯物を一生懸命干している入居者の姿があった。事業所の前を走る道路は坂道で交通量が多く、外出には危険が伴うので、前庭で外気浴・日光浴をしたり、ティータイム・バーベキュー・花植え等楽しむ「場」として有効活用している。調理の得意な職員等が入居者と楽しい食事作りに励んでいる。意欲のある職員で「ジュニアボード制」を取り入れ、若い世代の提言も反映させる事で、法人全体がより質の高いサービスの提供ができる様に日々努力している。在宅医療に熱心な医師との出会いから、「看取り」が出来て貴重な体験となり今後の支援に大きな進展が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果(2Fひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、事業所目標と同時に基本姿勢を策定している。法人ホームページや事業所パンフレットにも掲載したり、理念は事務所、玄関に掲示しており周知に努めている。	法人の理念として「照千一隅」(一隅を照らす) 一輝きを持ち 必要とされる人になろうと表明している。この理念に沿って、「入居者が心から自分の家と思える場所『第二の我が家・第二の家族』を目指す」を事業所の理念として日々の支援に努めている。各職員はネームカードの裏に理念と共に個人目標を記載し実践すると共に振り返りの機会も持っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会・老人会への加入は行っていないが、区会長の配慮で行事案内等の情報はいただいている。地域行事の敬老会や近隣保育園の運動会見学、食材購入に買物にも出掛け、ある一定の地域交流は継続している。	事業所の立地環境が近隣の住宅と少しかけ離れており、前を走る道路が坂になって交通量が多く危険な状況の為、日常的に地域住民との交流は厳しくなっている。すぐ傍にある併設の特養やケアハウスの住民と合同で夏祭り等のイベントを行い交流している。近在の人が移動販売車で来所する機会があり、おしゃべりをしながら買い物を楽しんでいる。地域住民に向けて、事業所が「認知症あんしんサポート相談窓口」の役目を持っている事を掲げており、地域住民から相談を受けている。傾聴ボランティアの来所もあり、交流の機会の一つになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域還元については法人全体で捉えている。市より介護保険関連の委嘱委員を管理者が受けていたり、就労支援準備事業、府からは相談窓口を受託している。法人独自の地域貢献として、車椅子洗浄を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年度移行に係る地域委員の交代から開催ができていない。事業所行事後に家族会を開催し、意向等確認することで、円滑な運営が図れるようにはしている。	今年度は、諸般の都合で開催出来ていない。地域の介護関係の会合や家族会等の機会に、事業所に対する意見等を聞き取る様に努めている。次年度には、積極的に地域に働きかける予定をしている。	事業所として、十分ご理解頂いている事ではありますが、次年度は開催できる様に積極的に働きかけを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じ適宜連絡、訪問している。市町村担当者には、運営等に関してなど、相談・助言をいただくようにしている。	市にとって、社会福祉法人「秀孝会」は老人福祉施設の中核的な存在であり、市の福祉事業に参画して双方向での協力関係が築かれている。グループホームとしても、報告・連絡・相談の関係が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止について、法人として意識統一している。施錠をしないケアが当ホームの方針である。ご利用者がホーム前の交通量が多い車道に出ないように、門扉や玄関を適宜施錠、センサーチャイムの活用で危険回避に努めている。夜間ふらつきによる転落防止の為、夜間に限り階段に柵を設置している。	定期的に「身体拘束をしないケアの取り組みについて」研修を行い、管理者・全職員が周知して実践に努めている。入所者の安全を第一に考えながら、出来る限り行動の抑制をしない様に工夫している。言葉遣いにも配慮して気持ちよく過ごせる様に支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止と並行して、法人として勉強会等を開催し、学ぶ機会を持っている。虐待が見過ごされないよう、皮下出血等の現状申し送りなど行い、職員間で注意し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や外部研修など、学ぶ機会は持てるようになってきているが、参加が十分でないのが現状である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・改定時には書面にて説明を行い、同意・署名・押印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のご面会時に伺う事が多い。年間行事の多くにご家族様にもご参加いただき、家族会を開催して秘匿性を確保しながらご意見を出していただき易い機会を設けている。	家族等の意見は、来所時の会話・家族会・行事に参加された時等に意見を聞き取っている。入所者の意見は、日常の会話の中から読み取っている。個々人に関する事例が多い。アンケートも実施しており、事案によってはサービス向上委員会で検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催するスタッフ会議にて、課題や意見等を収集するようにしている。また、個別に声をかけるように努め、意見の収集に反映させている。法人としては、今年度よりジュニアボードミーティングを毎月開催し、経営参画を行う機会を増やした。	朝のミーティングで一日の目標設定をし、前日の反省を含めた意見交換を行っている。定期的に行なうスタッフ会議も意見や提案を聞き取る機会としている。又ジュニアボード制の導入により、意欲のある職員の建設的な提言を期待している。京都府人材育成認証制度の認証を取得し人材育成にも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	同一事業部にて定期開催している安全衛生委員会が、整備の一翼となっている。管理者が個々に、現状の課題や期待値など、全職員には至っていないが話す機会を持つよう努めている。また実績はまだ乏しいが、考課面談を行う事を法人として始めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として、新任・現任研修や勉強会の開催、外部研修への参加など、スキルアップに努めている。法人勉強会参加は乏しい現状だが、所内で会議時開催している認知症に資する学びを継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都府老人福祉施設協議会グループホーム委員会に加盟しており、小規模多機能委員会とも連携しており、情報共有等の交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴を含め、ご本人やご家族に協力していただき、できるだけ多くの情報をいただくよう努めている。特に初期段階では関わりを多く持ち、馴染みの居室作りをご家族にも行っていただくようお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の情報収集と併用して行い、家族関係など提供いただく情報を活用している。ご入所が決まり、一先ご安心されるご家族は多い。ケアプラン作成の為に、ご家族としてのご意向をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階では事前情報と異なる事もある。資料のみでなく、ご本人やご家族の置かれている状況を勘案し、対応をスタッフ間で協議し提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	持ちつ持たれつの関係が持てるよう、掃除、洗濯、家事等を代表とした生活事業を一緒に行う事で関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご来訪時、特に生活状況など共有していただけるよう報告に努めている。遠方のご家族にはメールで状況報告を行ったり、関係継続を支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室はできるだけ今まで使用されていた家具等持参していただき、少しでも安心できる空間作りになるようご家族にもご協力をしていただいている。通い慣れた通院の継続は変わりないが、友人・知人の来訪は、相互の高齢化もあり減少している。	開設十年を経て、入所者と共に知人や友人も状況の変化があり、来所される方が少なくなっている。親戚の人達等の来所は時々あり、おしゃべりを楽しみゆっくり寛いで貰える様に心配りをしている。馴染んだ美容院を希望される場合は家族と共に出掛けている。馴染みのスーパーへの買物も続けている。季節毎の外出も馴染みの場所を考慮して企画している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方と一緒に過ごせるようソファを配置したり、食事時のテーブル席に配慮したりしている。疎通の援助を行ったり共に誕生日を祝うなど関わりが持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて生活状況等の情報提供を適宜行うなどして相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中での言動を汲み取れるよう傾聴に努めている。ご本人からの聴取が困難な場合を含め、生活状況の報告と共にご家族に伺う部分が多くある。	初回面接で、本人・家族等から生活歴や心身状況・趣味・今後の生活の意向等聞き取ってアセスメントを行っている。入所後は、職員が毎日の生活の状況を記録し、更に家族等や医療機関からも情報を得て、介護計画に反映できる様に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入所時やご家族の面会時など、随時情報収集し、ご利用者ごとの個人ファイルに保管し共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケース記録に記載し、特記事項は情報把握がしやすいように、日誌記載などしている。ただ、伝達力の向上には課題も多く、記録の乏しさや簡潔明瞭な引継ぎなど、今後も改善が必要である。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	退職による年度途中の計画作成担当者の交代があったが、在宅ケアマネとして経験豊富な人材を配置し、ご本人やご家族の意向を聴取しながら、介護職も原案作成に携わり、共同して計画作成に努めている。	日誌や介護経過記録から、入所者個々人の情報を纏め、定期的にモニタリングを行っている。その結果を基に担当介護職・家族等でサービス担当者会議を開催し、意見交換を行って現状に即した介護計画を作成している。主治医からの情報も随時得ている。	主治医からの情報も随時得て介護計画に反映させておられますが、この情報をモニタリングの記録書に記載される事をお勧めします。それによって、医療を含めたチームケアの実践過程がより明確になるでしょう。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の支援状況を記録し、定期的にモニタリングを行い、必要に応じた計画作成の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方や就労など、ご家族の状況に応じてできる範囲で買物や定期受診などの付添いを柔軟に対応している。訪問サービスや介護支援サポーターの受入れ等を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方から地域行事の情報をいただいたり、ボランティアの行事参加や傾聴活動の受入を行い、資源を活用している。移動図書館の利用や、福祉用具の貸与を受けて自立支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの医療機関への受診を継続していただいている。重度化による通院困難などでは、往診調整や送迎援助など、適切に医療が受けられるよう相談・調整の支援をしている。	かかりつけ医の選択は、本人・家族等の意向を大切にしている。定期受診は、家族等の協力を得ているが、付添が困難な場合や重度化で通院が困難になって来た場合には、職員が付き添ったり、往診を依頼する等の支援を行い、適切な医療が受けられる様に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師配置は行っていない。健康面での情報は、定期受診や往診時に主治医に情報提供ができるように、文章にしたり付添いのご家族へお伝えしたりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には情報交換ができるように、フェイスシートや看護サマリー等の情報提供書の交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度、医療連携が図れる医師の協力のもと、ホームでの看取りが提供できた。家族、医療と連携を図り、現状共有や意向確認など適宜行ってきた。	「在宅医療」に熱心な医師との出会いがあり、医師・家族・介護職員等との連携で「看取り」を実現する事が出来た。家族等の「安心・感謝の心」と共に介護職員にとって貴重な体験が出来た。今後、この経験を活かして、家族等・医療機関・事業所と十分な意見交換をした上で、看取りまで支援していきたいと考えている。事業所が「終の住み家」になる事を願っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急・事故発生時の対応マニュアルは整備している。法人勉強会でAED使用訓練など、少数ではあるが、一定の訓練に参加している。管理者への速やかな報告と共に、対応指示を受けて日々の実践に繋げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の連絡場所の増設として、昨年、警備会社との連携を強化した。事業所での地域連携は図れていないが、隣接の法人施設との協力体制は整備されている。	年間六回の防災訓練を実施しているが、火災を想定しての訓練が主になっている。地域性もあり、地域との連携には至っていないが、隣地にある特養やケアハウスとの協力体制は出来ている。更に警備会社との連携も強化している。全職員には、研修や実地訓練で危機管理についての認識が深められる様に努めている。災害に対するマニュアルもあり、隣接する福祉避難所の特養や、同じく隣接するケアハウスに発電機や食料品等備蓄として保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴におけるケアや言葉かけには気を配っている。居室等、プライベート空間のマナーとして、ノックをするなど配慮している。	事業所のパンフレットに「一人一人の生活を重視し、持っている力を最大限に活用できるような環境を提供いたします」と表明している通り、全職員に定期的な研修(高齢者への尊厳・プライバシー等に関する)を行って周知を図っている。排泄・入浴時の支援には特に声掛けなど配慮して、プライドを傷つけたり・羞恥心を抱かせない様に心配りしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	事業所の基本姿勢として挙げており、職員本位にならないように、ゆっくり待つよう努めている。具体的な内容として、食の聞き取りや衣類洗濯など。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	重度化などから、以前に比べゆったりとした時間の確保が難しい。ホームの意義を振り返る事で、寄り添える時間を大切に、特に誕生日など外出意向を伺い支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選択可能な方には、好みの衣類を選んでいたいたり、美容・理髪等、外出支援をしている。選択困難な方には、嗜好情報などを基に支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットごとで献立立案をして、地域スーパーや移動販売野菜を購入し、個々の能力に応じて切り・盛り付け・下膳や食器洗いを一緒に行っている。	入所者にとっての楽しみの一つが食事であり、職員は「楽しい・美味しい食事」を大切に、入所者と一緒に献立を考え、個々人の好みや能力に応じて、下ごしらえから調理・盛り付け・片付けまで一緒に行っている。食材の買物にも出掛けている。真剣な表情で煮物を盛り付けている利用者を、傍でにこにこしながら見守っている利用者達の姿があり、和やかな雰囲気が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	多品目を目指し、摂取・水分量など記録し共有する事で、少ない方には捕食等、嚥下状態によってはとろみ剤の使用など、状況に応じて対応している。定期的に体重測定を行い、一定の栄養指標としている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけや誘導、介助にて、各自居室でうがいや歯磨きを行っている。定期的に歯科衛生士の口腔ケアを訪問にて受けておられる方もいて、助言をいただき口腔運動を実施している方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、適切な援助ができるように時系列で記録をしている。時間帯によってオムツ種類を使い分け、心理的・経済的にも負担軽減を目指している。可能な限り、トイレでの排泄を目指してトイレ誘導を支援している。	排泄記録を基に、さり気なく声掛けや誘導を行ってトイレでの排泄を支援している。個人の状況に応じて、経済的な負担の軽減等も考慮しながら排泄用品を選択して支援を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の促しや毎日のラジオ体操の習慣など、予防に資するよう努めてはいる。ただ、下剤調整が必要な方は多い状況である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	重度化により毎日の入浴は難しくなっている。管理を行い、定期的な入浴支援を行って入る。なかなか入っていただけない方には、ご家族の協力もいただきながら、清潔を保つ支援をしている。	入浴の時間帯や曜日等は、入所者本人の体調や気分等を鑑みながら、職員体制も視野に入れて調整している。入浴拒否の強い場合は、家族等に声掛け等協力して貰っている場合もある。季節湯や入浴剤等個人に合わせて、ゆっくり入浴を楽しんで貰える様に心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内温度や寝具調整、不安への傾聴など行い、安眠への支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後、処方される薬剤と共に提供のある、薬情報をファイル化しており、薬効や副作用などの情報共有に努めている。必要に応じ、主治医や調剤薬局への問合せを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴に合せ、家事や晩酌などの嗜好継続をさせていただいている。行事や買物等での外出、ご家族へのご連絡などで、楽しみや気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は行っていない。屋内ケアの充実が現状である事と、加齢による重度化からも園庭での日光浴、食材購入での買物外出が主になっている。	事業所の立地環境・入所者の加齢による機能低下等から日常的な外出支援は出来ない。広い園庭で外気浴や日光浴をしたり、洗濯物を職員と一緒に干したり取り入れたり作業は日常的に行っている。庭にテーブルを出して、バーベキューやティータイムを楽しんでいる。初詣や花見等季節毎の外出は計画的に実施している。近在のスーパーへの買物は楽しみの一つになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状、管理困難な方ばかりであり、ご本人が出納をする機会がない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方がおり、混乱がないように、またご家族の負担にならないよう支援している。また、遠方のご家族に手紙を出す支援も行っていたが、徐々に機能低下により文字理解が困難になってきている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある物を飾ったり、カレンダーを付けている。居間はガラス面が多く明るくなっており、オープンキッチンのあるリビングで囲まられている。敷地内には、花が植えられたり、行事などではご利用者に生花をしていただき、花を飾っている。	玄関を入ると、ゆったりと落ち着いた雰囲気を感じられる。リビングは、南側に大きな窓があり、外の景色が眺められ、時間帯によってカーテンで明るさを調節している。オープンキッチンから、煮炊きの匂いが心地よく、食欲を刺激している様な生活感がある。トイレ・風呂場等も清潔に保たれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置する事で、新聞を読んだりテレビを見たりしてくつろげるようにしている。庭には、ベンチの設置をして、気の合った方々で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面台と空調、広い収納空間がある。ベット、畳敷きに布団と部屋の改造は可能である。使い慣れた家具や衣服をご本人とご家族で準備していただいている。	居室は、ゆったりとした空間があり、窓も大きくて明るい。馴染みの家具を使いやすい様に配置して、写真や手作りの作品が飾られて、その人らしい部屋になっている。小さな仏壇を置いて花を供えている入所者もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段、エレベーターの使用なども、ご本人の能力に応じて実践し慣れていただく事で、より安全な手段で行き来するなど自立していただいている。表示、表札など設置する事で、理解しやすい目印の工夫を行っている。		